

菅谷研究室ゼミ合宿報告書

申請教員：菅谷克行（現代社会学科 メディア文化メジャー 教授）

事業番号：1-17

事業区分：学生の教育研究活動支援

参加者：学生 16 名（3 年生 6 名、4 年生 10 名）、教員 1 名

実施日時：2026 年 9 月 16 日（水）～9 月 18 日（金）、於：神奈川県横浜市・鎌倉市・藤沢市

活動内容：

菅谷研究室では、専門教育および研究指導の一環として、毎年夏季に合宿形式のゼミを実施している。本合宿は、専門分野および研究活動に関する学びを深めるとともに、学年を超えたゼミ生相互の交流を促進することを目的としており、学生が主体となって企画・運営を行っている。

今年度は神奈川県横浜市および鎌倉市・藤沢市において実施し、以下の活動をおこなった。

◎ワンダリア横浜とニュースパークを見学

ワンダリア横浜 (<https://wonderia.jp/>) では、森林や深海、洞窟などをテーマとした没入型映像空間を体験した。迫力ある映像や音響により自然をテーマとする仮想空間を身近に感じることができ、デジタル技術を活用した新たな学習・観光コンテンツの可能性について理解を深めた。特に、来館者がその場にいるかのような臨場感を生み出す映像表現や空間演出は効果的であり、利用者の興味・関心を高めるための工夫が随所に見られた。

ニュースパーク（日本新聞博物館：<https://newspark.jp/>）では、新聞の歴史やジャーナリズムの役割に関する展示を見学した。新聞がどのような過程を経て制作され、社会へ情報を発信しているのかについて理解を深めることができた。また、展示されている過去の新聞を見ながら報道機関が果たす役割や情報発信の意義について深く考えるとともに、近年課題となっている偽情報や誤情報への対応、情報の信頼性を見極める重要性について再確認する機会となった。

今回の訪問を通じて、情報を発信する側の責任と、受け取る側が情報の真偽を適切に判断する姿勢の双方が重要であることを学んだ。また、情報伝達の手法は時代とともに変化しているものの、正確な情報を人々へ伝えるという本質的な役割は変わらないことを理解した。ワンダリア横浜とニュースパークは分野こそ異なるものの、「情報を効果的に伝える工夫」という共通点を有しており、メディア文化を学ぶ学生たちにとって、非常に有意義な見学となった。

◎情報デザインの観点から鎌倉の各所を散策

鎌倉市内の各所を、情報デザインの要素に着目しながらグループで散策した。散策後は宿泊施設に戻り、各グループで見学した事例や分析結果を整理した上で、全体発表およびディスカッションを行った。

本活動を通して、案内表示やサイン計画、観光情報の提供方法など、情報デザインの考え方が実社会のさまざまな場面で活用されていることを確認した。また、グループでの分析や意見交換を通じて多様な視点に触れることができ、情報デザインに対する理解を一層深める機会となった。

